



CHIBABANK

香港ニュース

2017年10月号

◆香港における2つの大規模
インフラプロジェクトについて

千葉銀行 香港支店

1. はじめに

香港では、このところ 2 つの大きなインフラプロジェクトに注目が集まっています。1 つは今年内に開通予定の「港珠澳(コウジュオウ)大橋」、もう 1 つは来年開通予定の「広深港(コウシンコウ)高速鉄道」です。

これらのプロジェクトは、2007 年に当時の曾蔭権(ドナルド・ツァン)行政長官が香港の中国本土返還 10 周年を機に発表した「10 大インフラプロジェクト」に掲げられたもので、香港経済への大きな影響が予想されることもあり建設工事の進捗状況が常に注目されてきました。

また、今年 7 月に中国の習近平国家主席が香港を訪れた際に、港珠澳大橋の工事現場を視察するなど、中国政府も高い感心を持っています。

これらのプロジェクトの完成により、香港と中国本土およびマカオの間で、人やモノの往来が一段と活発化することが予想されており、香港を訪れる本土旅行客の一層の増加による消費の拡大や、香港を経由した貿易取引の拡大など、様々な経済効果が期待されています。

今回の香港ニュースでは、この 2 つのプロジェクトの概要、および香港経済への影響などについてお伝えします。



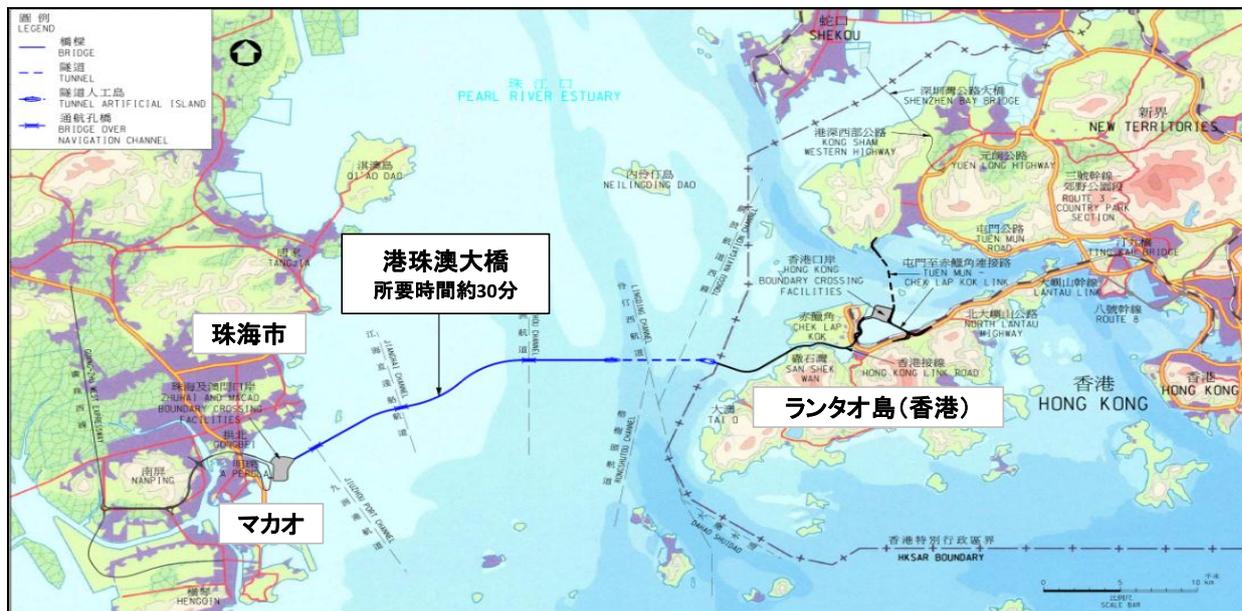
(出所) Xinhua



(出所) South China Morning Post

2. 2つのプロジェクト概要

(1) 港珠澳大橋



(出所) 港珠澳大橋香港プロジェクトより筆者作成

港珠澳大橋は、香港(ランタオ島)、中国広東省珠海市およびマカオ(澳門)の3都市を結ぶ海上大橋です。その距離は、全長約 55 キロメートル(海底トンネル部分約 7 キロメートルを含む)と、完成すれば世界最長の海上橋となり、香港～珠海市およびマカオ間を約 30 分で移動可能とし、陸路での移動時間(従来は約 4 時間)が大幅に短縮されます。

※ご参考:アクアライン大橋(木更津～川崎間)全長約 15.1 キロメートル(トンネル部分含む)

香港側、珠海市・マカオ側の双方の起点に出入境検査所を設置するため人工島を築き、珠江河口部分を海上橋(一部海底トンネルを含む)で結ぶ工事は、珠海市・マカオ側区間は 2009 年 12 月に着工しました。一方、香港側区間は、環境保全を求めるランタオ島住民による建設反対運動が行われたこともあって、当初の予定より 1 年遅い 2011 年 12 月に着工しました。

その後、工事は順調に進められ、昨年 7 月には珠海・マカオ側区間が完成しました。香港側区間についても今年 7 月に完成し、年内には全線が開通する見通しとなっています。なお、同橋の総工費は 1,000 億人民元(約 1.7 兆円)を上回るといわれています。

(2) 広深港高速鉄道



(出所) 蘋果日報より筆者作成

広深港高速鉄道は、中国広東省広州市、同深セン市および香港の 3 都市を繋ぐ高速鉄道です。香港区間(全長約 26 キロメートル)には、起点として新たに西九龍駅(入出境検査所を含む)を建設中であり、開通後は西九龍駅～広州南駅間を最短 48 分で結びます。

※総路線距離:約 142 キロメートル(東京～軽井沢間(約 147 キロメートル)に相当)

現在、香港の紅磡(ホンナム)駅～広州東駅間を結ぶ越境列車(九広鉄路)の所要時間は約 2 時間であるため、高速鉄道の開通により、移動時間が大幅に短縮されます。

中国本土の入り口である深セン市の福田駅～広州南駅区間(全長約 116 キロメートル)は 2015 年 12 月に開通し、すでに高速鉄道が運行しています。一方、香港区間は 2010 年に着工、当初の開通予定は同じく 2015 年でしたが、沿線住民による建設反対運動などを受け開通時期は度々順延されてきました。その後、2017 年 7 月時点で 95%まで工事が進捗し、2018 年第 3 四半期には香港区間が完成、全線が開通する見通しとなっています。



【西九龍駅完成イメージ】

(出所) MTR

3. プロジェクトの影響

(1) 香港経済への恩恵

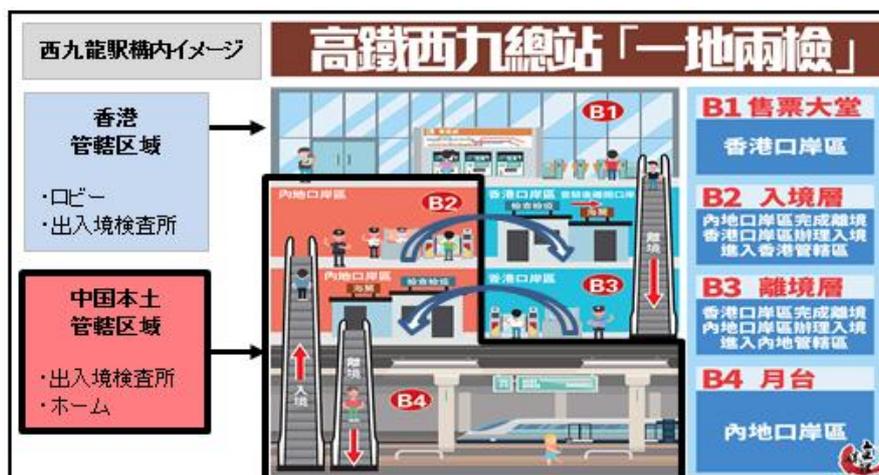
両プロジェクトは、地域間の移動時間の短縮のほか、雇用の創出など様々な面で香港経済に恩恵をもたらすことが期待されています。

港珠澳大橋の開通により、珠海市およびマカオから香港国際空港(約 30 分)や香港中心部のコンテナターミナル(約 75 分)までのアクセスが向上するため、香港を経由した貿易取引の拡大が見込まれます。そして、香港側の起点となるランタオ島では、大規模コンベンションセンター(Asia World-Expo)や宿泊施設を活用したビジネスの場としての利用拡大のほか、同島が有する香港有数の観光資源(天壇大仏、鳳凰山(ランタオピーク))の集客増などが見込まれます。

また、広深港高速鉄道の開通では、総延長距離 20,000 キロメートル以上に及ぶ中国本土の高速鉄道ネットワークを利用し、中国本土各都市にアクセスすることが可能となります。具体的には、北京市(約 8.5 時間)、上海市(約 7.5 時間)、武漢市(約 4.5 時間)などの都市に、香港から乗り継ぎなしで直接アクセスすることが可能となる予定です(後述する香港西九龍駅での一地両検が前提)。高速鉄道は飛行機と比べ移動時間は長いものの、安価な運賃や遅延リスクの低さといった魅力もあるため、相応の需要が見込まれます。

(2) 中国本土との関係強化

香港政府は今年 7 月、広深港高速鉄道の西九龍駅構内に香港と中国本土双方の入出境検査所を設ける制度案「一地両検」を発表しました。同制度の発案の背景には、入出境検査所を香港と中国本土との境界に設置すると、乗客が一旦降車して入出境手続きを行わなければならないため、高速鉄道の意義が薄れてしまうことがあります。同制度の導入は、今年末から行われる香港立法会での審議を経て決定する予定で、香港政府は 2018 年 3 月までの決定を目指しています。



(出所) 大公文匯より筆者作成

4. おわりに

港珠澳大橋と広深港高速鉄道の完成により、香港を取り巻く人やモノの流れに大きな変化が生じるとともに、香港経済は様々な面でその恩恵を享受していくとみられます。そのため、これらのプロジェクトが相次いで完成する今年末から来年にかけて、香港は大きな転換点を迎えます。

一方、「一地両検」に代表されるように、香港が中国本土との関係をより一層強めることへの不安感や警戒感が一部の香港市民の間で高まっているのも事実です。香港政府は今後、中国本土からの経済的恩恵を享受しながらも中国本土への警戒感を強める複雑な民意をどのようにコントロールしていくのか、その動向が注目されます。

千葉銀行香港支店では、千葉県企業の香港・中国華南地区への進出等を全面的にサポートしております。現地法人設立の手続きや、オフィス・工場物件の紹介、税制等の情報等、幅広いサービスを提供させて頂いております。また、実績豊富な中国進出のためのコンサルタントを紹介することも出来ますので、弊行お取引店を通じ、お気軽にご相談下さい。

- ※ ここに掲載されているデータや資料は、情報提供のみを目的としたもので、投資勧誘等を目的としたものではありません。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなされるようお願いいたします。
- ※ また、弊行は、かかる情報の正確性や妥当性については、責任を負うものではありません。